

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中央療育センター	評価対象年度	令和2年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 同愛会 ・代表者名 理事長 高山 和彦 ・住所 横浜市保土ヶ谷区上菅田町金草沢1749	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	通園定員 100名 入所定員 50名 短期入所定員 10名 診療所利用児数 年間延べ 8,285名 (前年度延べ12,229名) リハビリ・検査実施数 年間延べ11,628名 (前年度延べ11,507名)	通園契約児数 169名 (前年度契約児 : 204名) 令和2年度末 39名 (前年度末 : 46名) 令和2年度延べ利用数 1,226名 (前年度 : 968名)																				
収支実績	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">収入 (通所+入所)</td> <td style="width: 33%;">支出 (通所+入所)</td> <td style="width: 33%;">収支差額</td> </tr> <tr> <td>給付費等 108,928千円</td> <td>人件費 732,024千円</td> <td>-49,471千円</td> </tr> <tr> <td>医療費等 222,545千円</td> <td>事務費 94,231千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料 561,179千円</td> <td>事業費 87,899千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 59,235千円</td> <td>固定資産 42,203千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>繰入金 45,000千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 951,886千円</td> <td>合計 1,001,357千円</td> <td></td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入 (通所+入所)	支出 (通所+入所)	収支差額	給付費等 108,928千円	人件費 732,024千円	-49,471千円	医療費等 222,545千円	事務費 94,231千円		指定管理委託料 561,179千円	事業費 87,899千円		その他 59,235千円	固定資産 42,203千円			繰入金 45,000千円		合計 951,886千円	合計 1,001,357千円	
収入 (通所+入所)	支出 (通所+入所)	収支差額																				
給付費等 108,928千円	人件費 732,024千円	-49,471千円																				
医療費等 222,545千円	事務費 94,231千円																					
指定管理委託料 561,179千円	事業費 87,899千円																					
その他 59,235千円	固定資産 42,203千円																					
	繰入金 45,000千円																					
合計 951,886千円	合計 1,001,357千円																					
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・通所部門では地域の幼稚園・保育園との連携強化に向けた訪問活動を推進し、関係機関との間で顔の見える関係づくりを行い、より密接な連携や協力を図ることができた。 ・入所部門では医療対応ケースの増加に対応するため、医療関係の研修を増やし、看護師の指導のもとで救急対応講習を実施するほか言語聴覚士による摂食指導も行っている。 ・通所部門・入所部門の一体的な運営の利点を生かし、通所部門専門職による入所児童のケアを行うなど相互連携して、利用者のサービスの質の向上に努めた。 																					

3. 評価 (評価段階: 5～1,標準: 3,加点割合: 5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・入所児童の生活面における指導について、児童相談所と連携の上、適切な対応を行った。 ・通所部門では難聴児を対象とする言語発達とコミュニケーション力の獲得を狙いとする難聴児クラスを運営し、利用者ニーズへの対応に努めた。 ・入所部門では入所児童の生活の場としての充実を図り、季節行事や住空間の工夫を試みるなど、入所児童の気持ちに寄り添った支援が企画された。また、特別支援学校高等部3年生10人全員についてそれぞれの状況に見合った施設退所後の進路先を定め、地域移行を図ることができた。 ・診療所では、要望や意見に柔軟に対応し、担当医の見直しや医療度の高い利用者には支援が安全にできるよう、療育前に保育室で医師が診察や体調管理を行う方法を導入した。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
(評価の理由) ・歳出入予算と歳出入決算額の変動率が2%未満であり、計画的な予算執行が実施された。 ・引き続き法人内部監査室による監査と外部公認会計士による監査を行い、厳格な経理業務の運用を行った。					

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	3	3
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3
利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所内の組織機構としてヒヤリハット・防災・給食・行事・衛生・虐待防止等の各種委員会を運営し、活動計画の立案や取り組み内容の検証を実施し、サービスの向上に努めた。 ・通所部門では利用者からの要望は意見箱や懇談会での収集を行い、誠実・迅速・丁寧な対応に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を徹底させるため、通園事業の規模を縮小するなどあったものの、施設訪問に特化した訪問部を新たに設置し、幼稚園・保育園へのアウトリーチによる支援を積極的に行う等、コロナ禍で可能な支援を展開した。 					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	4	4
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修体系を整理し、福祉従事者としての意識形成や応接、福祉・医療・児童心理などの知識や技能の習得を目的としたスキルアップ研修、管理職マネジメント研修など研修機会の確保に努めた。 ・外部産業医を積極的に活用し、常に助言や情報提供を受けられる体制を構築するとともにヤハラメント防止啓発・職員相談窓口の周知活動に注力するなど、法人組織で率先して労働環境改善の維持・改善の取り組みが推進されていた。 ・各施設に規則規程集を必置にし、グループウェアを活用した閲覧環境を用意して、全職員に徹底を促すことで法令遵守の適切な運用を行った。 ・療育センターに勤務地を限定した採用を行うことにより、療育センターでの従事に高い志向を持つ職員の採用が行えた。 ・通所・入所両部門の職員全体にアンケートを実施し、今後の施設運営における課題抽出を行い、その結果を整理することで、今後の職員の育成などの取組に向けた仕組みづくりを行っている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種保守点検、警備等については、委託により仕様書に沿って適切に実施し、施設の安全性を確保した。 ・木の剪定や建物の景観についても周辺地域に配慮の上、適切な管理を行った。 					

4. その他加点

分類	項目	着眼点			評価点
その他加点	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			1
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井田地区の福祉関係施設との連携により防災や人材育成に係る課題の解決を図っている。 ・過齢児問題への対処や利用児の退所後のアフターケア体制づくりを通じて、利用児の地域移行のための環境調整や他機関連携を図り、子どもが安心して暮らせる支援体制づくりを行っている。 				

5. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・課題であった過剰児対策において、高校3年生全員の地域移行を図ることができた。
- ・昨年度の指導事項として示した職員育成環境の拡充について、採用手法の工夫や職員のメンタルケアを目的とした定期面談の履行など、課題を意識した改善活動の試みが見られた。
- ・地域ニーズの変化や増加がある中で、保育園や幼稚園等への訪問をはじめとした機関支援による地域支援の推進や電話相談への対応など、市内における中核的機関としての役割を意識して業務遂行にあっていた。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・権利擁護の意識を職場内で醸成し、不適切な支援の防止を徹底すること。
- ・引き続き職員の労働環境の改善に努め、待遇の整備、研修などの職員育成環境を拡充し、支援の質と職場環境の充実の両立に努めること。